

アパリは、依存症からの  
回復を支援します。



## アパリのミッション

NPO法人アパリは、2000年に薬物依存症リハビリ施設「ダルク」のシンクタンクとして設立。政府・行政機関、リハビリ施設等の民間団体と連携しながら薬物依存者の回復支援を行なっています。従来の医療・司法システムの考え方にとらわれず、国境を越えて、アジア太平洋地域におけるアディクション(依存症)問題を抱える本人や家族に対し「**休息が必要な人には休息を、知識が必要な人には知識を、仲間が必要な人には仲間を**」を理念に回復をサポートしていきます。



(左から)志立玲子、近藤恒夫、尾田真言



### NPO法人アパリ 理事長 近藤 恒夫

**プロフィール** | ダルク創設者。元刑事被告人で薬物依存症者本人。

1985年 東京日暮里にダルクを設立。現在全国に約100施設にダルクが拡大。

1995年 第9回東京弁護士会人権賞受賞

2000年 第35回吉川英治文化賞受賞

2009年 JICA(国際協力機構)草の根協力支援型プロジェクトマネージャー

2009年 法務省矯正研修所東京支所(講師)

2011年 龍谷大学矯正・保護総合センター(嘱託研究員)

2013年 第4回作田明記念財団最優秀賞受賞

著書『真冬のタンポポ 覚せい剤依存から立ち直る』双葉社(2018) 他

## アパリの沿革

アパリの正式名称は、特定非営利活動法人 アジア太平洋地域アディクション研究所です。その英語表記のAsia-Pacific Addiction Research Instituteの頭文字APARIからアパリという略称を用いています。

アパリは2000年に設立されたNPO法人で、現在の理事長はダルク創設者の近藤恒夫です。民間の薬物依存症者のリハビリ施設であるダルクは1985年に東京都荒川区に設立され、国内外含め約100の施設を持つに至っています。またアパリの入るAICビルは、クリニックや、デイケアなどの複数機関が統合された施設です。依存症の当事者や、そのご家族があちこちの機関へと振り回され疲労するなか、回復を逃してしまう、そのようなことを避け、1カ所に対応することを可能にすることが、この施設の特徴です。

また、設立当初より、群馬県藤岡市に藤岡ダルクを運営しています。

### 役員紹介

■ **理事長 近藤 恒夫**(こんどう つねお)

■ **副理事長 石塚 伸一**(いしづか しんいち)  
弁護士(第二東京弁護士会)  
九州大学において法学博士号取得  
龍谷大学犯罪学研究センター長  
龍谷大学法学部教授 専門は刑事法

■ **理事 島田 尚武**(しまだ よしたけ)  
元警察庁長官官房国際部長  
元JICA(国際協力機構) 監事

■ **顧問 横田 尤孝**(よこた ともゆき)  
弁護士(第一東京弁護士会)  
東京地検検事、各地方検察庁検事、東京、福岡高等検察庁検事等を歴任  
法務省保護局長、法務省矯正局長、最高検次長検事、最高裁判事を歴任  
旭日大綬章 受章(2015年)

■ **理事 山本 大**(やまもと まさる)

2006年よりNPO法人アパリ 藤岡ダルク 代表  
一般社団法人 AREA代表理事、韓国ソウルダルク  
顧問

■ **理事 加藤 隆**(かとう たかし)

2015年よりNPO法人八王子ダルク 代表理事  
1997年から2年間ダルクでの回復プログラムを  
受ける。2007年東京ダルクに入職。2011年東京  
ダルク八王子施設長。

■ **監事 鈴木 尚**(すずき たかし)

2003年税理士登録、2004年すずき会計事務所  
所長  
1999年から薬物依存症者の兄弟パートナーの  
自助グループGOODBOXに参加。  
2018年アパリ監事就任、アパリ創業時から税務  
顧問を務める。

### 事務局紹介

■ **事務局長 尾田 真言**(おだ まこと)

中央大学大学院法学研究科博士後期課程を経て  
現職、アパリ創設期からのメンバー  
条件反射制御法学会理事、国土館大学法学部  
非常勤講師、龍谷大学犯罪学研究センター嘱託  
研究員、刑事施策専攻

■ **事務局次長 志立 玲子**(しだち れいこ)

2003年アパリ入職 リーガルソーシャルワーカー  
精神保健福祉士  
NPO法人日本ダルク監事、認定NPO法人ワン  
ダーポート監事、一般社団法人回復支援の会理事、  
早稲田大学社会安全政策研究所招聘研究員

■ **嘱託研究員 高橋 洋平**(たかはし ようへい)

高橋洋平法律事務所代表弁護士  
中央大学法科大学院実務講師、龍谷大学犯罪学  
研究センター嘱託研究員、医療法人社団アパリ  
監事、アパリ・ダルク顧問弁護士、やっかれん顧問

## アパリの活動

### 1 司法サポート

薬物事犯で逮捕された方に回復の道筋を設定するための  
コーディネートをを行っています。(詳しくはP3を参照)

### 2 施設運営

藤岡ダルク(群馬県藤岡市)の運営を行っています。

### 3 研究・啓蒙活動

ニュースレター「フェローシップ・ニュース」を隔月に発行して  
います。また、様々なセミナーや研修会を開催したり、国内  
外の法律・医学系の学会で研究成果を報告したり、情報  
収集をしています。

### 4 家族教室

毎月第1、第3月曜日の夜、薬物依存者の家族のためのプロ  
グラムを東京本部で実施しています。

### 5 電話相談業務

薬物に関わる問題で苦しんでいる家族や本人からの電話  
相談を実施しています。

### 6 講演活動

法務省、内閣府、都道府県庁、精神保健福祉センター、  
病院等で講演活動を行っています。

### 7 国際協力活動

フィリピン・マニラの貧困層における薬物依存者の回復  
支援事業を行っています。貧困のため回復の場がない人  
たちに日本の回復者たちが日本で培った回復のメッセージ  
を届けます。

### 8 諸機関との連携

ダルク、病院、精神保健福祉センター、福祉事務所ならびに  
刑事施設、保護観察所など多くの機関と連携をとりながら  
活動しています。

### 9 薬物検査キットの販売

各種薬物検査キットを販売しています。

### 10 贖罪寄付

被疑者・被告人からの贖罪寄付を受け入れ、依存症回復  
支援のために有効に役立てています。

### 11 薬物政策アドボカシー

日本薬物政策アドボカシーネットワーク(NYAN)プロジェクト  
による活動で、ハームリダクションを取り入れたプログラム  
も実施しています。

## 「逮捕は更生のチャンス!」

アパリの司法サポートとは、刑事司法手続によって身柄を拘束されている薬物問題を抱える人たちに、一日も早くダルクや病院で薬物離脱プログラムを受けられる道筋をつくることです。

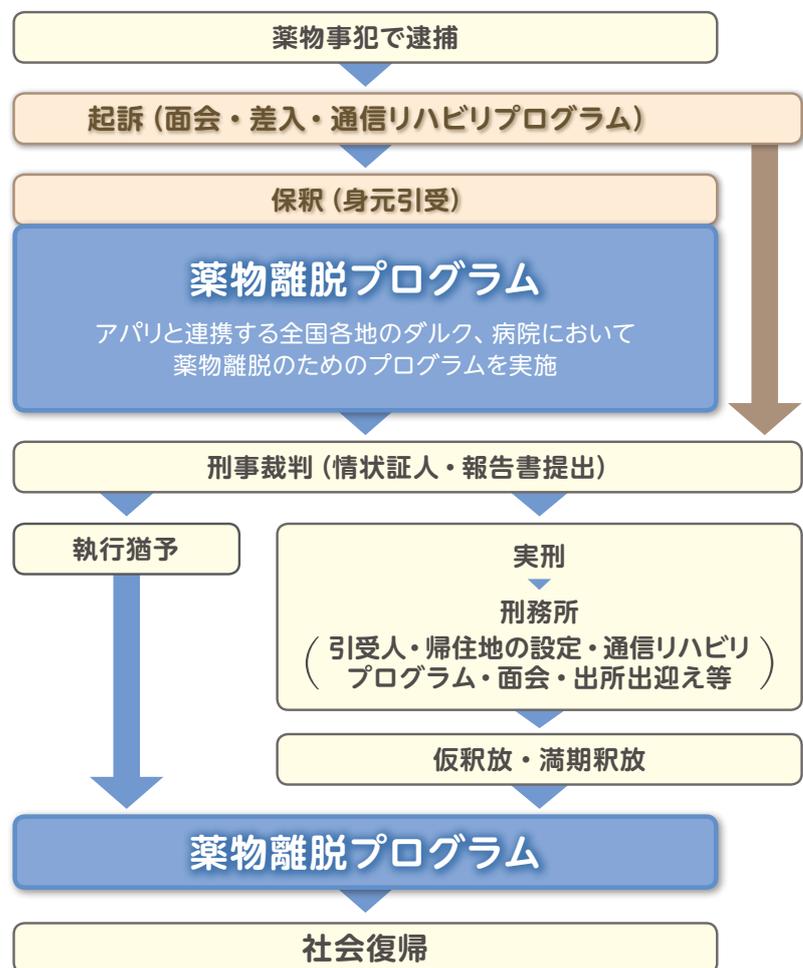
**逮捕されたときこそ、薬物問題から更生するチャンスです!** 長年の経験とノウハウを持つアパリには、薬物事犯で逮捕された方の支援実績が約500件あります。支援が困難な方であっても、決して諦めず、家族や弁護士とともに協力しながら更生に向けて誠実に対応していきます。

### 司法サポートの内容

- 面会(警察署、拘置所等)
- 保釈の上申書作成
- 保釈時の制限住居の設定(ダルクや病院等)
- 情状証人出廷
- 上申書作成
- 受刑中の通信リハビリプログラム
- 身元引受人の設定
- 受刑中の手紙のやり取りや面会
- 仮釈放(満期)出所出迎え
- 家族相談
- 家族教室の開催

ダルクのご紹介や、場合によっては入院治療をお勧めします。また、証人出廷のみなどの部分サポートも行っています。  
**逮捕された方と、そのご家族、弁護士からお申し込みできます。**

### 司法サポートの流れ



### ご利用料金

トータルサポート料	20万円(5年契約)	面会 ▶ 1万円/1回	証人出廷 ▶ 5万円
		上申書作成 ▶ 5万円	保釈上申書作成 ▶ 5万円
部分サポート料		通信リハビリプログラム ▶ 5万円	

※別途消費税がかかります。 ※遠方の場合は、別途交通費・宿泊費がかかります。

## 家族支援

アパリでは薬物の問題で困っているご家族に対して個別相談と家族教室を実施しています。主に薬物事犯で逮捕されたご家族を対象にしています。

多くのご家族のみなさんは、身内の方が逮捕されたことで不安で夜も眠れないという経験をされています。アパリでは逮捕された本人を薬物依存からの回復の道筋にのせると同時にご家族も支援していきます。家族教室では、安心して何でも話せる場を提供し、同じ経験をしているご家族と分かち合うこともできます。

勇気をもって最初の一步を踏み出してみませんか？

家族教室ではテキストを使って1クール8回の連続講座を行っています。

### プログラムの目標は次のとおりです。

- 1 身体を健康にしましょう。普通に眠れて元気な身体を作りましょう。
- 2 心を健康にしましょう。生活に落ち着きを持てるようになりましょう。
- 3 社会での活動や人間関係を取り戻す準備をしましょう。
- 4 生きがいを取り戻しましょう。

薬物依存症によるダメージや、薬物依存症についての理解、どんな特徴があるのか、家族自身のケア、また親子間の適切なコミュニケーション方法などを学んでいきます。



家族教室 会場



テキスト

- 連続講座  
(テキストを使った1クール8回のプログラム)  
第1月曜日 18:30～20:30
- アディクション関連講座  
(様々な分野の専門家を招いての講演)  
第3月曜日 18:30～20:30

参加費用 3,000円  
ご家族の場合は1家族4,000円

※この事業は東京都福祉保健財団の助成金で運営しています。

## 国際協力活動

フィリピンには約200万人の薬物依存症者がおり、首都であるマニラ首都圏では、薬物乱用が深刻な問題となっています。一部の富裕層や中間層のための薬物依存症治療システムは存在するものの、最も問題である貧困層に対する治療のノウハウやシステムはほとんど存在していません。さらに劣悪な環境では薬物依存症から脱することはできず、家族も問題を抱えてしまいます。

これまで日本が行ってきた薬物依存症回復支援は、日本独自で非常にユニークなものです。薬物依存症者は犯罪者であり、社会に必要な人間として排除されていました。薬物依存症者に対して、医療や福祉はさじを投げる状況で、回復する資源のない環境からのスタートがベースにありました。この環境は現在のフィリピン、特に都市部貧困層の依存症者の状況に似ています。

ダルクは1985年から日本で最初の薬物依存症回復支援を始め、そのシステムを作り上げてきました。そこでアパリはそのノウハウを活かし、フィリピンの貧困層薬物依存症者の「生きる力」を引き出すため、当事者同士の助け合い、経験と回復を向上させるミーティングを普及させました。

ここには、まったく回復のチャンスも資金もない方々が利用できるという利点があります。またフィリピン保健省の協力、および富裕層の回復者であるボランティアの協力を最大限に活かし、日本で培ってきたノウハウをもとに回復のための社会資源づくりを目指します。



マニラ貧困層地区



タタロンでのミーティング風景

## 薬物検査キットの販売

アプリでは簡易薬物検査キットを販売しています。複数の薬物を検出できるマルチタイプは、唾液検査キットと尿検査キットがあります。

検査の実施は、薬物を使用しないようにするための抑止力となります。さらに厳密な検査を希望される方のために、株式会社LSIメディエンスによる尿の確認検査を依頼するサポートも行っています。

<https://www.medience.co.jp/drugabuse/>

早期発見  
早期  
治療を!

検査キット



アプリではAmazonを通じて検査キットを販売しています。

こちらから購入してください。



## 薬物政策アドボカシー

NYAN | 日本薬物政策アドボカシーネットワークは、薬物使用という事象に関して、依存症(アディクション)に限定せず、司法・医療分野と同様に、薬物使用がある人とその身近にいる人の健康と福祉・尊厳と権利を重要視する社会の実現を目指すアドボカシープロジェクトです。アドボカシーには、権利擁護、政策提言、(社会などに対して)声をあげる、という意味があります。

NYANは国内外のさまざまな関連分野で活動する団体・個人とのネットワークを広げています。薬物使用がある当事者(海外)、薬物依存症からの回復当事者、家族、ソーシャルワーク・福祉・保健・医療・看護などの分野、司法分野、障害者・LGBT・セクスイワーカー・移住労働者(在留外国人)のコミュニティ、女性・母子をはじめジェンダーに関わる分野などとのつながりを大事にしています。



### NYANのとくみ

- 1 情報発信・ネットワークづくり
- 2 イベントや研修会の開催や企画  
薬物使用、支援に関するさまざまな提案、相談、調整
- 3 プログラム:ハームリダクションに基づくプログラム  
(ドラッグOKトークなど)

NYANプロジェクト <http://nyan-jp.net>  
ドラッグOKトーク <http://ok-talk.com>

## 贖罪寄付のご案内

薬物犯罪など被害者のいない犯罪や、被害者との示談ができない刑事事件について、被疑者・被告人が反省の態度を示したり、不正に得た利得を社会に還元するための贖罪寄付を随時受け付けています。

事件への反省を込めてなされる贖罪寄付は裁判所から有利な情状として評価され、刑が軽減されることもあります。寄付金はアプリの活動資金として大切にに使わせていただきます。贖罪寄付を受けましたら、領収証と感謝状を発行します。詳しくはアプリまでお問い合わせください。

### 振込先

銀行名：三菱UFJ銀行 笹塚支店  
口座番号：普通 0929745  
口座名義：特定非営利活動法人 アジア太平洋地域アディクション研究所  
理事長 近藤 恒夫

# 藤岡ダルク

〒375-0047 群馬県藤岡市上日野2594 TEL.0274-28-0311 / FAX.0274-28-0313  
<https://www.fujiokadarc.com>



## 施設概要

藤岡ダルクはNPO法人アパリが運営する入寮型リハビリ施設です。

東京から車で約2時間、群馬県藤岡市に位置し、近隣にはゴルフ場や温泉、そして鮎釣りもできる美しい川があります。以前はホテルだったところを現在は施設として使用し、都会の喧騒から離れ大自然に囲まれた緑豊かな環境のなかで、薬物、アルコール、ギャンブル等のアディクション(依存症)が引き起こす問題を、様々なプログラムを通してアプローチし、「問題」を「解決」へと導き、「回復」の支援を行っています。

## ご利用案内

### 入寮定員

40名：男性のみ

### 入寮費

月額：13万円(初回月は14.5万円) ※別途消費税がかかります。  
 上記の他に本人に対しての生活費(1日1,000円)がかかります。  
 生活保護受給者も入寮可能です。

### 入寮期間

3か月ごとにアセスメントを実施し、スタッフ若しくは家族等支援者を交えた面談を通して方向性を決めていきます。

※法務省の「自立準備ホーム」の登録をしています。



外観



ロビー



スタッフルーム



食堂

## 平均的な週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土	日
午前	朝食					セルフ・ケア	セルフ・ケア
	9:30～9:50 清掃						
	ハウス・ミーティング	10:00～11:00	ダルク・ミーティング	FUJIOKAARP			
	11:00～ 各役割作業時間とセルフ・ケア						
午後	昼食					ルームミーティング	セクションミーティング1
	太鼓練習 30分						
	13:00～	スポーツ・プログラム	スモール・グループワーク	グループ・ミーティング			
	14:00	音楽、アートプログラム	ブレイン・ストーミング	エンパワメント・グループ			
	14:00～ 各役割作業時間とセルフ・ケア						セクションミーティング2
	夕食						
19:30～21:00 自助グループ参加(NA・AA等)							

## 主なプログラム概要

### グループ・ミーティング

アディクションは単に薬物、アルコール等を使用することだけではありません。使用に伴い、本人はもちろん周囲の人たちにも影響を及ぼします。アディクションから回復していくためには自身の内面に目を向ける必要があります。グループ・ミーティングは他者の話を見聞きし、自身の体験を話すことにより、どこが問題なのかを探っていきます。



ミーティングルーム

### 音楽・アートプログラム

このプログラムは、アディクションによって損なわれた想像性を取り戻していく為のものです。音楽を演奏する際の生理的、心理的、社会的な効果を応用するとともに、絵画、工作等を通し、自由な表現のなかで自分の内面と対話し表現力を育てていきます。施設内には音楽スタジオ、DJブースも完備しています。



音楽スタジオ

### FUJIOKARPP

(FUJIOKADARC RELAPSE PREVENTION PROGRAM)

このプログラムはもともと神奈川県立精神医療センターのせりがや病院にて開発された認知行動療法の一つで、主に薬物依存症を対象とした外来の治療プログラムです。当ダルクでは開発された先生方の協力を得てこのプログラムを行っています。小グループの中でテキストを用いながら、再使用を防ぐための知識を習得し、どのように行動を変えていくかを学んでいきます。

### エイサー・プログラム

沖縄の伝統芸能である琉球太鼓(エイサー)を学ぶことにより、心身の健康的な回復、向上を目指します。また地域の方々との交流を育み、慰問活動等の公演を通し入寮者に社会貢献の場を提供します。



エイサー公演

### その他のプログラム

#### アサーティブ・トレーニング

自分の要求や意見を、相手の権利を侵害することなく、誠実に、率直に、対等に表現することを学びます。

#### エンパワメント・グループ

エンパワメント・グループは気づきのグループです。他の参加者からの質問やフィードバックを通して、自分一人の考えでは知ることのできなかった考え方や感じ方、そして対処の仕方に目を向けることができます。

#### 感染症予防教育

専門家を招いてHIV、C型肝炎等について正しい知識の習得、性感染の予防について学びます。

#### レクリエーション/スポーツ

利用者のリクエストに応じ、毎月温泉や食べ放題等に行きます。また、季節ごとに、餅つきや川遊び、ボウリング大会、ソフトボール大会、映画鑑賞、その他イベントがたくさんあります。施設内にはトレーニングルームもあり常時使用できます。

※プログラムは他にもたくさんあります。毎年アップデートされており、利用者の回復に必要と思われるものを常に提供しています。

## 施設写真



庭



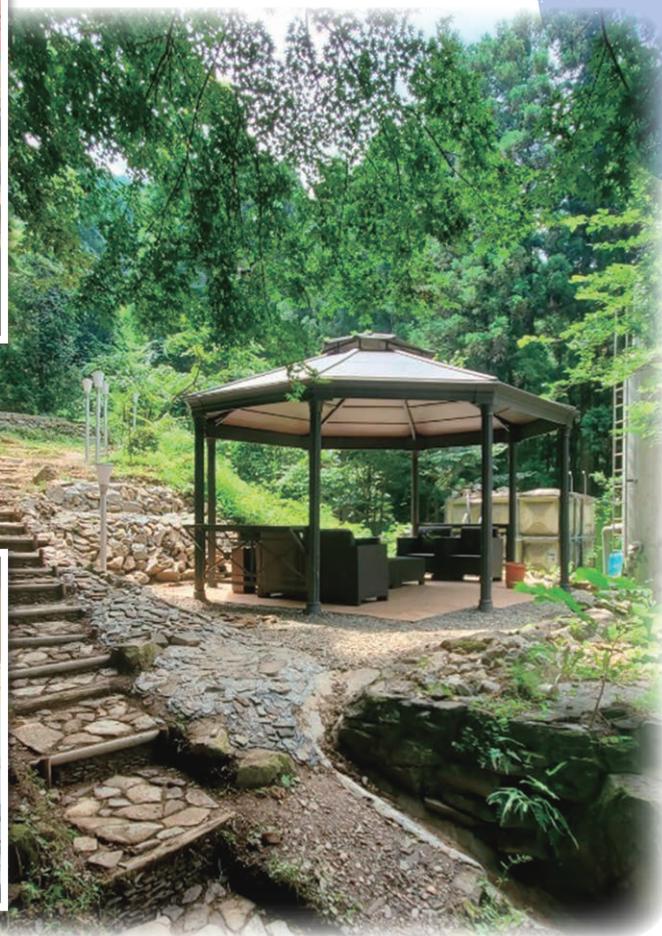
DJブース



居室



トレーニングルーム



## 通所施設〈AREA高崎〉

藤岡ダルクでは特に生活訓練が必要な方に対して、当施設と提携をしているAREA高崎に通所していただいています。ダルクは男性のみの入寮型施設ですが、AREA高崎は男女問わず通所することが可能です。リハビリを考えているが入寮は難しいという方にお薦めです。

詳しくは藤岡ダルクまたはAREA高崎まで直接お問い合わせください。



AREA高崎は障害福祉サービス(自立訓練・生活訓練)を行う施設です。それぞれの能力に応じ生活上の機能や行動の訓練、必要な医療並びに日常生活のサポートを行うことで、自立した生活を営むことが出来るようにし、利用者の方に対し社会への復帰及び参加を目指します。



一般社団法人 AREA AREA(エリア)高崎

〒370-3525 群馬県高崎市三ツ寺町67-35 TEL.027-388-8971

e-mail: [area-takasaki@hotmail.com](mailto:area-takasaki@hotmail.com)

## 1. アパリとダルクの違いは何ですか？

**A** 薬物依存症者の当事者活動であるダルクに対し、アパリ(東京本部)は法律問題などについて弁護士ら司法関係者、大学教授や研究者、精神保健福祉士など専門家によりダルクを下支えするシンクタンクです。

## 2. 息子をダルクに入寮させたいのですが、入寮費が高くて払えそうもありません。どうすれば良いでしょうか？

**A** 入寮費の支払いが困難な場合は、生活保護を受給して入寮することが可能です。刑務所出所者であれば、法務省の費用でダルクの入寮費を一定期間支払うことが可能な自立準備ホームの制度があります。利用に際しては条件がありますが、この制度が適用されるダルクがあります。

## 3. ダルクと病院の違いは何ですか？どちらが治るのでしょうか？

**A** 病院は一時的な幻覚、妄想、欲求渴望が強いなど急性期の病状を落ち着かせたら2~3ヵ月で退院します。ダルクは日常の暮らしのなかで薬物をやめ続け、同じ仲間と暮らすなかで一緒にプログラムに取り組んで回復を目指します。同じことを繰り返さないためにも生き方や価値観を変え、新しい自分になる場所でもあります。病院とダルクでは目的が違い、それぞれ効果が違います。

## 4. 息子が刑務所に3年入っていてもうすぐ戻ってきますが、長い間クスリを使ってなかったのに治って帰ってくるのでしょうか？

**A** 刑務所は矯正施設であり、薬物依存症という疾患の治療施設ではありません。クスリが手に入らない刑務所でやめ続けられたとしても、手に入る環境のある社会でやめ続けることは異なります。健康的に社会生活を送るにはリハビリが重要と言えます。

## 5. 全国どこでも司法サポートはしてもらえるのでしょうか？

**A** 北海道から沖縄や離島まで支援は可能です。

## 6. 薬物依存症の人にはどういう特徴がありますか？

**A** ●クスリを手に入れるためにウソをつく●不安や恐れ、痛み、孤独を忘れるためにクスリを使用する●簡単に気分を変えるためにクスリを利用する●クスリの常用で仕事や勉強などの生活に支障が出ている●過剰に摂取してしまうなどコントロールができない●使用しないと落ち着かないなど強迫観念があります。  
(アパリ理事長 近藤恒夫 談)

## 7. 息子が覚せい剤で逮捕されたのですが、家族はどうすれば良いでしょうか？

**A** 逮捕されたことをきっかけとしてアパリの「司法サポート」を利用し、回復の道筋をつけることが良いと思います。ご家族や弁護士から依頼されるケースが多いです。本人は嫌々ながらも刑が軽くなるかもしれないという期待もあり治療にのる可能性があります。また、薬物問題に理解のある弁護士を紹介しています。

## 8. 薬物依存症の息子に借金の問題が発覚しました。親が代わりに支払ってあげたほうが良いでしょうか？

**A** 保証人になっていない限り、親には支払い義務はありません。薬物使用をめぐり発生した問題を家族が後始末することは、いつまでたっても本人が問題や責任の直視を避けることになり、さらに問題を深めることになります。何の治療もなされてないまま債務整理をしたとしても、また借金を作る可能性があります。本人の回復の状況を見守りながら、最終的には本人が債務整理をすれば済むことです。

## 9. 女性でも支援は受けられるのでしょうか？

**A** アパリと連携している女性専用の入寮施設、またはデイケアセンターを紹介します。

## 10. ダルクの特徴は何ですか？

**A** ダルクは薬物依存症者の当事者が当事者を支援する施設です。責任者もスタッフも薬物使用の経験者です。各ダルクがそれぞれ自立し、ゆるやかな連携を保ちながら運営しています。薬物依存症者にとって再使用の誘惑が入り込みやすい“孤立化”を防ぎ、自助グループなどを通じ回復をフォローアップし、手助けしていきます。

# お問い合わせ先・アクセス

## ■NPO法人アパリ

〒162-0055 東京都新宿区余丁町14-4 AICビル1F  
TEL.03-5925-8848/FAX.03-5925-8984

<https://apari.or.jp>

e-mail: [info@apari.or.jp](mailto:info@apari.or.jp)

受付対応時間(月曜日～金曜日) 10:00～18:00



### アクセス

電車の場合 ▶ 都営新宿線 曙橋駅 A2出口より徒歩7分  
都営大江戸線 若松河田駅 河田口より徒歩7分



## ■藤岡ダルク

〒375-0047 群馬県藤岡市上日野2594  
TEL.0274-28-0311/FAX.0274-28-0313

<https://www.fujiokadarc.com>

e-mail: [fujiokadarc@hotmail.com](mailto:fujiokadarc@hotmail.com)

受付対応時間(月曜日～金曜日) 10:00～18:00



### アクセス

電車の場合 ▶ JR高崎線 新町駅より車で40分  
※JR新町駅まではJR上野駅よりJR高崎線で約1時間30分  
自動車の場合 ▶ 関越道 練馬インターチェンジより約1時間30分  
藤岡インターチェンジ出口より約30分



## ■AREA高崎

〒370-3525 群馬県高崎市三ツ寺町67-35  
TEL.027-388-8971

e-mail: [area-takasaki@hotmail.com](mailto:area-takasaki@hotmail.com)

受付対応時間(月曜日～金曜日)9:00～17:00  
(土曜日)9:00～12:00



### アクセス

電車の場合 ▶ JR高崎駅西口より関越交通高崎線  
群馬温泉行バスで約25分  
バス停「新堀」下車 徒歩6分  
自動車の場合 ▶ JR高崎駅西口より国道17号と県道25号(渋川街道)経由  
で約25分



## アパリ会員入会のご案内

アパリの活動・運営資金へのサポートをお願いいたします。  
アパリの活動の目的に賛同して入会していただいた方は正会員に、事業に賛助くださり入会いただいた方を賛助会員とします。

### ■ 入会申し込み方法 ■

#### 年会費

正会員 12,000円 賛助会員 6,000円  
郵便振替または現金書留にてお支払いください。

#### 郵便振替口座

口座番号:00170-0-616579  
加入者名:NPO法人アパリ

### ■ 特典 ■

定期的に(2ヶ月に1度)アパリが発行する会報「フェローシップ・ニュース」をお送りします。  
また、書籍の割引購入や公開講座・フォーラム等の情報提供など様々な特典がございます。



ご相談・お問い合わせは



## NPO法人アパリ

〒162-0055 東京都新宿区余丁町14-4 AICビル1F  
TEL.03-5925-8848/FAX.03-5925-8984  
<https://apari.or.jp>  
e-mail: [info@apari.or.jp](mailto:info@apari.or.jp)